

**平成 30 年度スポーツ庁委託事業**  
**「地域の指導者を主体としたスポーツエコシステム構築推進事業」**  
**委託事業完了報告書**

2019/3/31

Now Do 株式会社

## 目次

第 1 章 背景・目的.....	4
1-1 本調査報告書作成の背景及び目的.....	4
1-2 本事業概要と期待される効果.....	4
1-3 実証事業タイムライン.....	5
第 2 章 検証調査.....	7
2-1 検証概要及び取得データ、考察記録.....	7
2-1-1 公共施設稼働率傾向調査.....	7
2-1-3 シニア対象 スポーツ傾向調査.....	11
2-1-4 運動能力向上レッスン.....	13
2-1-5 座学 スポーツ栄養学.....	14
2-1-6 座学 スポーツメンタルセミナー.....	16
2-1-7 運動能力向上レッスン トレーナー育成セミナー.....	18
2-1-8 卓球レッスン.....	19
2-1-10 セパタクロール体験教室.....	22
2-1-10 サッカースキルアップ教室.....	23

---

第 3 章 検証調査まとめ及びシステム設計 .....	24
第 4 章 実証用スポーツエコシステム .....	26
4-1 施設予約管理システム [*1 EasyBook] .....	26
第 5 章 清瀬市との調整業務 .....	29
5-1 清瀬市施設予約管理システムの現状 .....	29
5-2 清瀬市との主な調整業務 .....	30
5-2-1 クレジットカード決済の導入 .....	30
5-2-2 利用規約（キャンセルポリシー）及び使用承認書の発行 .....	32
5-2-3 キャンセルポリシー、返金フローの明瞭化 .....	33
第 6 章 エコシステムのマルチテナント化 .....	34
第 7 章 スポーツエコシステムの告知 PR 業務 .....	36
第 8 章 事業まとめ .....	38

## 第 1 章 背景・目的

### 1-1 本調査報告書作成の背景及び目的

本事業は、官民が一体となり、スポーツトレーナーや指導プログラム、公的スポーツ施設等を ICT (=Information and Communication Technology: 情報通信技術) の活用等により利用者の利便性向上を図り、スポーツ資源の有効活用をもって、新たな指導ビジネスの創出やスポーツ施設の稼働率・収益向上を目標とした実証を行うことを目的としている。

我が国が所有する豊富なスポーツ資産(スポーツ施設やトレーナー、指導プログラム)を ICT の活用により、利用者が利用しやすいように情報提供し、利用者の利用を促すことで資産を有効活用し、その結果スポーツ人口の拡大やスポーツ施設の稼働率・収益向上、トレーナーの収益向上を達成する上での先進的なビジネスモデルを構築する。

### 1-2 本事業概要と期待される効果

スポーツエコシステムの開発、モデルケース検証・実証する。

①「スポーツ施設の施設管理者」(以下「施設運用者」)、②「スポーツの指導をしたい人」(以下「トレーナー」)、③「スポーツをやりたい人」(以下「利用者」)それぞれの空いている時間を、ICT を活用することでマッチングしサービスを提供する事を念頭に第 1 章 1-3 実証事業タイムラインに添い本事業を遂行した。

本事業を遂行するにあたり、

- ① 個別指導の需要調査
- ② トレーナー別需要調査
- ③ スポーツ種別需要調査
- ④ 施設空き時間傾向調査
- ⑤ 運動施設に来ているシニアの運動実態調査

これらの検証事項と並行しながらスポーツエコシステムの企画、設計、開発を実施し、下記①～⑤の期待される効果があげられるように本事業を展開した。

- ① 地域市民のスポーツ実施率向上及び地域施設の有効活用
- ② マイナースポーツも含むアスリートのビジネスモデル創出によるセカンドキャリア支援
- ③ スポーツ指導機会の増加によるスポーツトレーナーの育成
- ④ マイナースポーツも含む未来アスリートの育成
- ⑤ シニア層の運動機会の創出

### 1-3 実証事業タイムライン

実施時期	実施項目			
	(1)需要調査・実証	(2)開発	(3)施設運用者	(4)行政調整／スポーツ庁
7月	個別指導需要調査（企画、告知、実施、ヒアリング）			
8月	シニアスポーツ動向調査（企画、告知、実施、ヒアリング）			
9月	トレーナー需要調査（企画、告知、実施、ヒアリング） 施設空き時間調査	施設予約管理システム 完成 コントロールパネル 企画	施設予約管理システム 施設運用者ヒアリング	スポーツ庁報告
10月	トレーナー需要調査（企画、告知、実施、ヒアリング） 施設空き時間調査	施設予約管理システム 修正 コントロールパネル 開発	コントロールパネル 施設運用者ヒアリング	清瀬市打ち合わせ スポーツ庁報告
11月	スポーツ種別需要調査（企画、告知、実施、ヒアリング） 施設空き時間調査	施設予約管理システム 修正 コントロールパネル 修正	コントロールパネル 施設運用者ヒアリング	清瀬市調整 スポーツ庁報告
12月	スポーツ種別需要調査（企画、告知、実施、ヒアリング） 施設空き時間調査	施設予約管理システム 修正 コントロールパネル 修正 トレーナー管理システム 企画	コントロールパネル 施設運用者ヒアリング	清瀬市調整 スポーツ庁報告

1 月	施設空き時間調査	施設予約管理システム修正 コントロールパネル修正 トレーナー管理システム開発	コントロールパネル施設 運用者説明、職員指導	清瀬市調整 スポーツ庁報告
2 月	テストサービス開始 (施設 空き時間のシステムでの 運用)	施設予約管理システム修正 コントロールパネル修正 トレーナー管理システム開発	コントロールパネル施設 運用者説明、職員指導、運 用スタート	清瀬市調整 スポーツ庁報告
3 月	テストサービス (①施設予 約②講座予約のシステム での運用) システム認知度調査	施設予約管理システム修正 コントロールパネル修正 トレーナー管理システム修正	コントロールパネル運用	

第 2 章 検証調査

2-1 検証概要及び取得データ、考察記録

2-1-1 公共施設稼働率傾向調査

モデルケースの実証の舞台である、清瀬市下宿市民センター、内山運動公園（テニス場、サッカー場）にて、施設利用日まで1週間前時点の予約率（稼働率）と施設利用日まで1週間をきった後の予約率を対象として調査を実施した。（表1～3 施設空き時間傾向調査「付録A 「施設空き時間傾向調査」参照）3ヶ月の調査実施で、利用日まで1週間をきってからの予約はほぼなく、施設全体で予約・実稼働率ともに1%～3%しかないことが判明した。特に会議室・選手控室は予約率・実稼働率ともに低く、施設としてもこの空いている期間を稼働させるためのプロモーション活動などは特に行っておらず、これらの空き時間をいかに有効活用できるかが、課題として明確になった。

施設空き時間傾向調査／下宿地域市民センター（2018/10/1～2018/10/28）

比較調査 ・比較調査： 使用日1週間前時点の予約/稼働率 vs 使用日まで1週間前の予約/稼働率 1時間単位で計算

	10/1～10/7		10/8～10/14		10/15～10/21		10/22～10/28		計	
	1週間前時点 予約/稼働率	使用日まで1週間 予約/稼働率								
第一会議室	29%	0%	19%	3%	22%	9%	37%	10%	27%	6%
第二会議室	9%	0%	24%	0%	16%	0%	19%	0%	17%	0%
選手控え室	24%	0%	15%	15%	16%	0%	25%	0%	20%	4%
柔剣道場	46%	0%	47%	4%	42%	9%	55%	0%	48%	3%
サッカーフィールドA	57%	7%	82%	0%	69%	0%	73%	0%	70%	2%
サッカーフィールドB	53%	4%	65%	0%	59%	0%	55%	0%	58%	1%
サッカーフィールドC	61%	0%	63%	2%	61%	2%	61%	0%	62%	1%
テニスA	80%	0%	71%	11%	89%	4%	86%	4%	82%	5%
テニスB	79%	0%	61%	0%	75%	4%	61%	7%	69%	3%
テニスC	86%	0%	68%	4%	61%	0%	64%	11%	70%	4%
テニスD	64%	0%	64%	4%	50%	7%	43%	11%	55%	6%
テニスE	75%	0%	57%	4%	68%	7%	61%	11%	65%	6%
テニスF	82%	0%	71%	0%	93%	0%	82%	4%	82%	1%
計	57%	1%	54%	4%	55%	3%	56%	4%	56%	3%

表 1 施設空き時間傾向調査（2018/10/1～2018/10/28）

施設空き時間傾向調査／下宿地域市民センター（2018/10/29～2018/11/25）

比較調査 ・比較調査： 使用日 1 週間前時点の予約/稼働率 vs 使用日まで 1 週間前の予約/稼働率

	10/29～11/4		11/5～11/11		11/12～11/18		11/19～11/25		計	
	1週間前時点 予約/稼働率	使用まで1週間 予約/稼働率								
第一会議室	18%	0%	22%	0%	26%	0%	9%	4%	19%	1%
第二会議室	23%	0%	32%	0%	21%	0%	18%	0%	24%	0%
選手控え室	15%	0%	15%	0%	24%	0%	20%	0%	19%	0%
柔剣道場	32%	0%	49%	0%	43%	0%	63%	0%	47%	0%
サッカーフィールドA	57%	4%	61%	2%	94%	0%	67%	2%	70%	2%
サッカーフィールドB	55%	2%	57%	4%	59%	4%	55%	2%	57%	3%
サッカーフィールドC	51%	0%	55%	4%	57%	0%	63%	0%	57%	1%
テニスA	89%	7%	79%	0%	82%	7%	86%	4%	84%	5%
テニスB	71%	4%	57%	0%	68%	7%	64%	4%	65%	4%
テニスC	64%	11%	54%	0%	54%	0%	68%	4%	60%	4%
テニスD	61%	4%	61%	0%	54%	0%	75%	7%	63%	3%
テニスE	57%	4%	57%	0%	71%	0%	71%	7%	64%	3%
テニスF	89%	7%	93%	0%	82%	0%	89%	0%	88%	2%
計	52%	3%	53%	1%	57%	1%	58%	3%	55%	2%

表 2 施設空き時間傾向調査（2018/10/29～2018/11/25）

施設空き時間傾向調査／下宿地域市民センター（2018/12/3～2018/12/30）

比較調査 ・比較調査： 使用日 1 週間前時点の予約/稼働率 vs 使用日まで 1 週間前の予約/稼働率 1 時間単位で計算

	12/3～12/9		12/10～12/16		12/17～12/23		12/24～12/30		計	
	1週間前時点 予約/稼働率	使用まで1週間 予約/稼働率								
第一会議室	26%	0%	9%	0%	16%	10%	0%	0%	13%	3%
第二会議室	26%	0%	41%	0%	40%	0%	0%	0%	27%	0%
選手控え室	75%	0%	11%	0%	11%	0%	11%	0%	27%	0%
柔剣道場	53%	0%	42%	0%	53%	0%	42%	0%	48%	0%
サッカーフィールドA	51%	0%	61%	2%	73%	0%	71%	0%	64%	1%
サッカーフィールドB	59%	0%	61%	0%	69%	0%	71%	0%	65%	0%
サッカーフィールドC	55%	0%	59%	0%	55%	0%	61%	0%	58%	0%
テニスA	93%	0%	89%	0%	89%	0%	89%	0%	90%	0%
テニスB	54%	0%	89%	0%	75%	0%	86%	0%	76%	0%
テニスC	61%	0%	75%	7%	82%	0%	79%	0%	74%	2%
テニスD	61%	0%	82%	4%	79%	0%	75%	0%	74%	1%
テニスE	75%	0%	75%	4%	93%	0%	82%	0%	81%	1%
テニスF	89%	0%	79%	7%	93%	0%	96%	0%	89%	2%
計	60%	0%	60%	2%	64%	1%	59%	0%	60%	1%

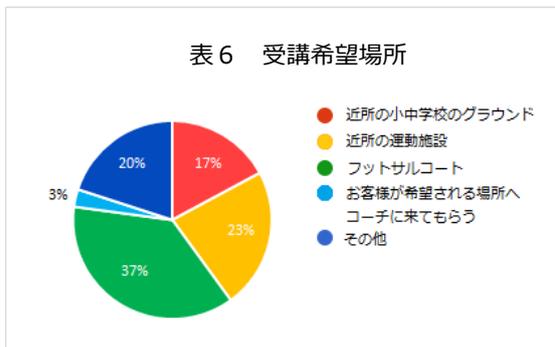
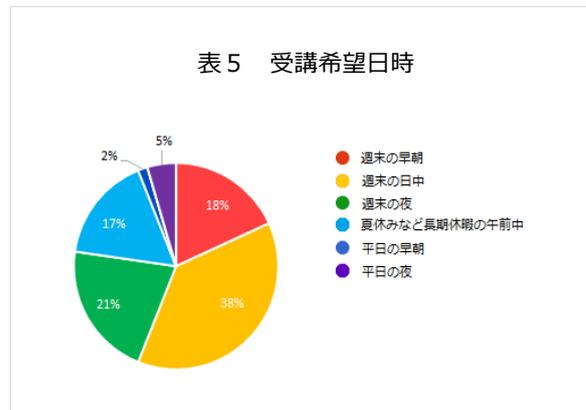
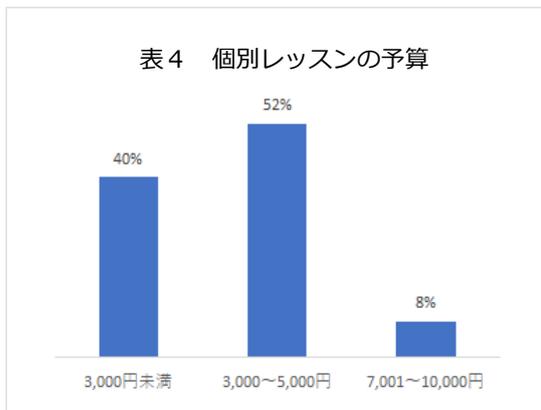
表 3 施設空き時間傾向調査（2018/12/3～2018/12/30）

### 2-1-2 サッカー個別指導

実証名	TRY Now Do! 個別指導①
目的	個別指導の需要調査
仮説	個別指導の需要がある 関係値のないユーザーとトレーナーでも個別指導の需要はある
実施日時	①2018/6/16 ②2018/6/17
実施場所	東京都（①新豊洲、②品川）＊民間フットサル施設
対象	子供（小学生）
定員	①8名／8枠、②8名／8枠
参加者	①8名、②6名
指導時間	1時間／1枠
参加費用	2,950円 一律
講師	橋本 圭悟、佐藤 豪、米川 正夫、松山祐樹、榎原 涼介、浅野 良太、山本 貴大
告知期間	2日前
実施内容	個人のレベル、希望する内容にあわせた個別指導
結果／分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカーの個別指導の需要はある。</li> <li>・受講価格は 3,000 円未満～5,000 円の回答が多数。（表 4 参照）</li> <li>・受講希望日時は週末の日中や夜の回答が多数。（表 5 参照）</li> <li>・受講場所は近所が良いとの回答多数。（表 6 参照）</li> </ul>
考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導の需要はあるが、トレーナー指導料と施設利用料を全額利用者が負担して参加費用が高くなった時に、需要があるかの調査が必要。</li> <li>・グループレッスンに需要があるのか調査が必要。（参加費用負担は減るが利用者の満足度に差はあるのか）</li> </ul>

実証名	TRY Now Do! 個別指導②
目的	個別指導の需要調査
仮説	個別指導の需要がある トレーナーのレベル別に指導料に差がある場合でも需要がある 個別指導に加え、少数性グループ指導も需要がある

実施日時	2018/7/1
実施場所	東京都（新豊洲）＊民間フットサル施設
対象者	子供（小学生）
定員	64 名（16 枠、1 枠 4 名上限）
参加者	26 名（個別：10 枠、グループ：6 枠）
指導時間	1 時間／1 枠
参加費用	2,950～9,000 円
講師	神原 一輝、浅野 良太、市川雅彦、山口麻美、伊地知誠、森谷 宗生 松山祐樹、山本 貴大
告知期間	2 日間
実施内容	・個人のレベル、希望する内容にあわせた個別指導 ・サッカーの個別／グループ指導
結果／分析	・サッカーの個別指導,少数グループでの受講需要はある。 ・受講価格は 3,000 円未満～5,000 円の回答多数。（図 1 参照）
考察	・グループによる少数参加型個別指導でも一定の需要を確認できた。



### 2-1-3 シニア対象 スポーツ傾向調査

実証名	シニアスポーツ動向ヒアリング調査
目的	運動施設に来ているシニアの運動実態調査及びシステム認知度調査
仮説	シニアは運動施設予約システムに煩わしさを感じている。 シニアは運動施設予約システムに馴染みがない。 シニアは運動のトレーナーを求めている。 シニアは身近な運動施設を知らない。
実施日時	2018/8/15～2018/8/31
実施場所	東京都内 公共施設含む運動施設
対象者	シニア（57歳以上）
参加者	58名
実施内容	運動施設に来ているシニア世代を対象としたヒアリング調査の実施 「運動に関する実態調査」 ・現在どんな運動をしているか？ ・そのくらい運動にお金を使っているか？ ・どのような方法で運動施設を予約しているか？ ・運動施設予約システムを利用しての感想 他
結果／分析	・シニアは運動に費用をあまりかけない。（表7,8 参照） ・トレーナーから指導を受けて運動したいと思っている人は40%未満。（表9 参照） ・インターネットのシニア層への普及はされているが、自身で施設予約システムを使う人は少なく、システムに対して煩わしさを感じている事は多い。（表10,11,12 参照）
考察	・シニアがスポーツ施設で運動をするには、予約方法が簡易であることが重要である。 ・シニアが興味をもつ運動プログラムが実施される事が必然である。また施設利用料、講座参加費用も安価であること。 ・自身のペースで健康促進のために運動をするシニアが多く、施設で運動をしようとする機会の創出が必要になる。 ・また、0→1で運動をこれからしようとするシニアへのアプローチも重要な要素となる。 現状、決済機能がない施設予約システムを使用しているため、わざわざ管理事務局まで支払いに行くのが面倒との声もあった。

表 7 運動に使う費用（月額）

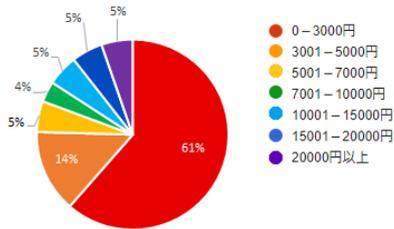


表 8 運動をしている施設

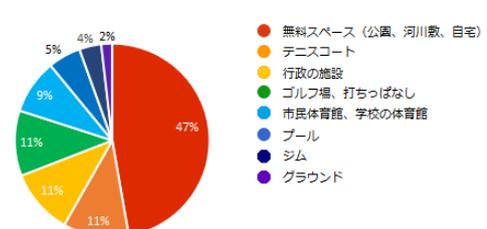


表 9 誰かに運動を教わりたいか

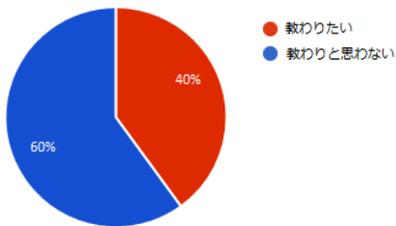


表 10 スポーツ施設予約システムを利用した経験

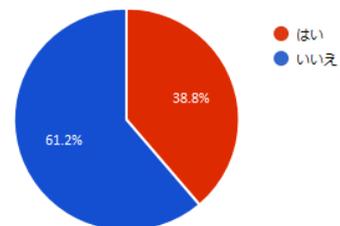


表 11 スポーツ施設の予約方法

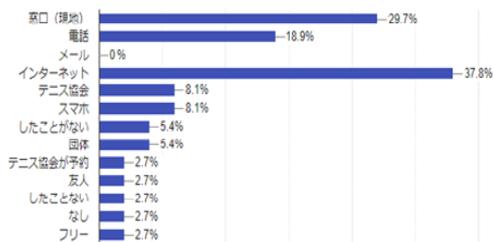
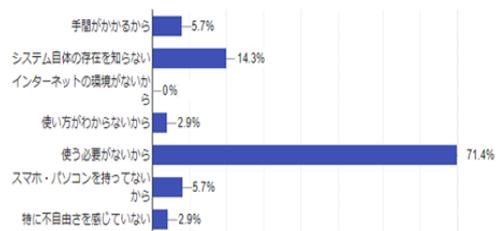


表 12 スポーツ施設予約システムを利用しない理由



#### 2-1-4 運動能力向上レッスン

実証名	運動能力向上レッスン
目的	低稼働施設の稼働 *2-1-1 稼働率調査参照 トレーナーの需要調査
仮説	会議室など本来は運動するスペースでなくても、運動講座を開催でき、 利用者の需要が確認できる。 知名度が高いトレーナーの開催する運動講座は需要がある。
実施日時	①2018/10/13 ②2018/10/14
実施場所	東京都清瀬市・下宿地域市民センター（会議室）
対象者	スポーツトレーナー、小さな子供を持つ親
定員	10 名／講座×4 レッスン（各日）
参加者	①5 名、②7 名
指導時間	45 分
参加費用	1,000 円
講師	鈴木良介
告知期間	1 週間
実施内容	運動能力、基礎体力向上を目的としたさまざまな運動体験。（体の使い方や動かし方、柔軟性、空間認知能力、ステップジャンプなど）
結果／分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加を決めた理由としてはトレーナーが1位の40%（表13参照）</li> <li>・実施施設に関しての不満は0%であった。（表14参照）</li> <li>・価格も適切であると感じた利用者は75%（表15参照）</li> <li>・施設のHPや施設の掲示板でイベントを知った人は0%であった。（表16参照）</li> <li>・トレーナーへの謝礼と施設使用料を考えると今回の参加費用では採算が取れない事が明確になった。</li> </ul>
考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施施設、環境よりも講座の内容、トレーナーにより利用者の満足度は図れる事が考察できた。</li> <li>・イベント自体の告知方法の工夫は必要で、どれだけ地域の人にアクセスできるかは今後の課題。</li> <li>・受講価格に関しては利用者の声を参考にすると少し高くしても良いかと考える。</li> </ul>

表 13 参加を決めた理由【1 位】

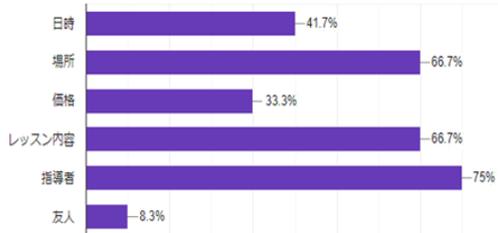


表 14 実施施設について

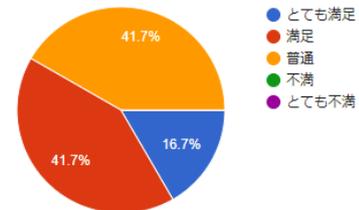


表 15 価格について

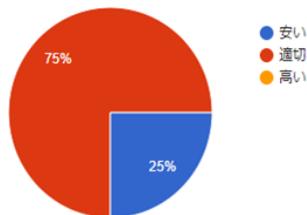
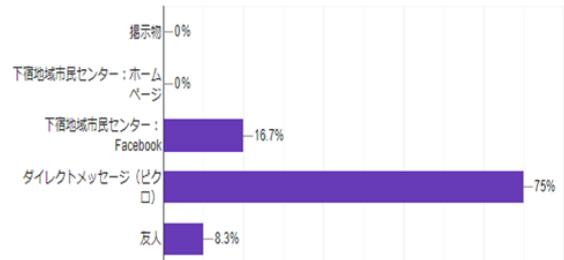


表 16 イベントを知った方法



2-1-5 座学 スポーツ栄養学

実証名	スポーツ栄養学セミナー
目的	低稼働施設の稼働 *2-1-1 稼働率調査参照
仮説	ジュニアアスリートの保護者、スポーツトレーナーは運動に関わる講座（座学）に興味はある。
実施日時	①2018/10/26 ②2018/10/28
実施場所	東京都清瀬市・下宿地域市民センター（会議室）
対象者	ジュニアアスリートの保護者、スポーツトレーナー
定員	20 名／講座×2 レッスン
参加者	①5 名、②8 名
指導時間	90 分

参加費用	1,000 円
講師	作田雅子（公認スポーツ栄養士、管理栄養士）
告知期間	1 週間
実施内容	ジュニアアスリートに必要な食事トレーニングに関する講義
結果／分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナーの内容で参加を決めた保護者が 90%以上いた。（表 17 参照）</li> <li>・参加者は 100% ジュニアアスリートの母親。（表 18,19 参照）</li> <li>・同様のセミナーが開催された場合参加したいと回答した人が 8 割以上。（表 20 参照）</li> <li>・開催時間としては平日の午前中という声が多い。（表 21 参照）</li> <li>・トレーナーの報酬が 15,000 円／講座で施設利用料が 2000 円。今回の参加者数では採算が取れない。</li> </ul>
考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の報酬も交渉に交渉を重ねて 15,000 円/1 講座まで抑えたが、同様の講座を開催する場合、需要があっても参加費用を上げるか、告知に時間、費用を加え、参加人数を増やすなどの対策が必要。</li> <li>・同額の報酬で講座を開催してくれる同等のスキルをもつトレーナーを探すのが非常に大変であった。</li> </ul>

表 17-1 参加を決めた理由【1 位】

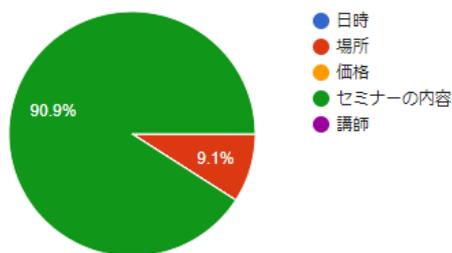


表 17-2 参加を決めた理由

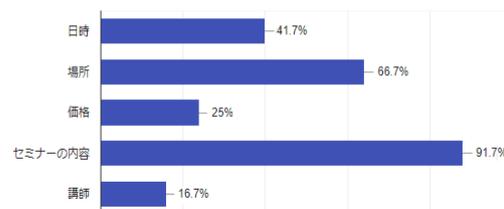


表 18 参加者：性別

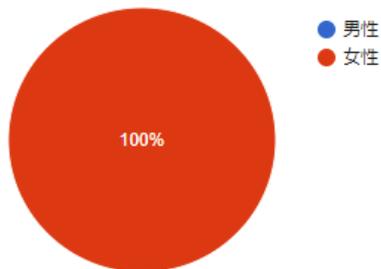


表 19 参加者：職業

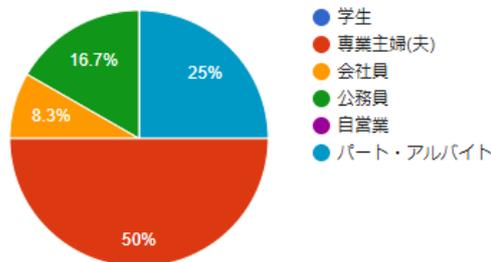


表 20 同様のセミナーへの参加

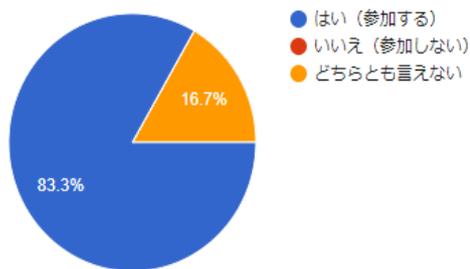
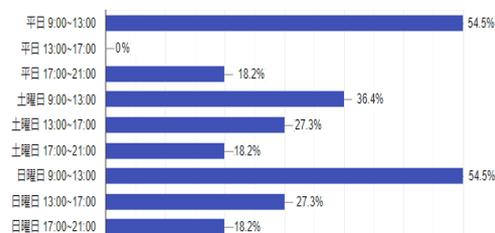


表 21 開催希望時間



2-1-6 座学 スポーツメンタルセミナー

実証名	スポーツメンタルトレーニングセミナー
目的	低稼働施設の稼働 *2-1-1 稼働率調査参照
仮説	ジュニアアスリートの保護者、スポーツトレーナーは運動に関わる講座(座学)に興味はある。
実施日時	2018/11/3
実施場所	東京都清瀬市・下宿地域市民センター(会議室)
定員	20名/講座×2レッスン
対象者	ジュニアアスリートの保護者、スポーツトレーナー
参加者	①6名、②20名
指導時間	80分
参加費用	1,000円
講師	山上康平(メンタルアドバイザー)

告知期間	1 週間
実施内容	ジュニアアスリート（保護者）向けスポーツメンタルセミナー 「”自信”の作り方」
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーナーの報酬が 15,000 円／講座で施設利用料が約 2,000 円。今回の参加者数では採算が取れない。</li> <li>・2-1-5 栄養セミナーに比べる参加率は低いものの、参加者の満足度は高かった。（表 22,23 参照）</li> </ul>
考察/分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の報酬も交渉に交渉を重ねて 15,000 円/1 講座まで抑えたが、同様の講座を開催する場合、需要があっても参加費用を上げるか、告知に時間、費用を加え、参加人数を増やすなどの対策が必要。</li> <li>・同額の報酬で講座を開催してくれる同等のスキルをもつトレーナーを探すのが非常に大変であった。</li> </ul>

表 22 セミナーの満足度

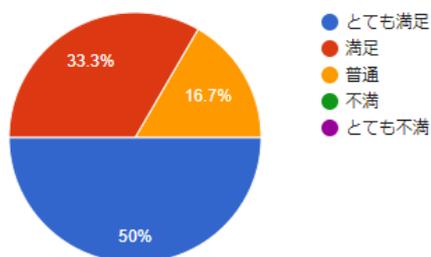
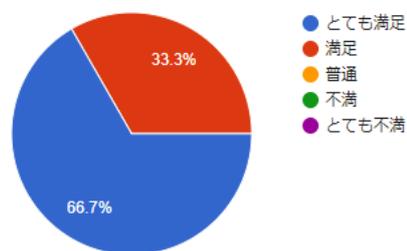


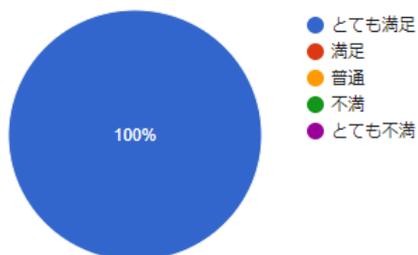
表 23 講師について



### 2-1-7 運動能力向上レッスン トレーナー育成セミナー

実証名	運動能力向上レッスン「トレーナー育成」セミナー
目的	低稼働施設の稼働 *2-1-1 稼働率調査参照 保護者トレーナーの育成
仮説	会議室など本来は運動するスペースでなくても、運動講座を開催でき、 利用者の需要が確認できる。 子供に指導をしてみたいトレーナーはいる。
実施日時	①2018/11/10、②2018/11/11
実施場所	東京都清瀬市・下宿地域市民センター（柔道剣道場、選手控室）
定員	10 組/枠×2 レッスン
対象者	スポーツトレーナー、小さな子供を持つ保護者
参加者	①5 組、②2 組
指導時間	75 分
参加費用	1,000 円
講師	鈴木良介
告知期間	1 週間
実施内容	<保護者・トレーナー向けセミナー>運動能力向上レッスン（家でもできる簡単なトレーニング方法）伝授 保護者・トレーナー向けセミナー
結果	・大人向けのイベントへの参加率は後日開催された卓球イベントと同様に低い。（表 24 参照） ・参加者の満足度は非常に高い（レッスン内容、トレーナー共に）
考察/分析	・大人向け講座では参加者が少なく、講座中も子供がメインの講座になった。 ・講師の報酬も交渉に交渉を重ねて 15,000 円/1 講座まで抑えたが、同様の講座を開催する場合、需要があっても参加費用を上げるか、告知に時間、費用を加え、参加人数を増やすなどの対策が必要。 ・トレーナーをやってみたいという保護者はいなかった。

表 24 指導者育成セミナーの満足度

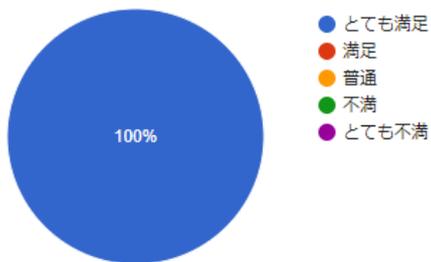


### 2-1-8 卓球レッスン

実証名	こそ練・卓球レッスン
目的	・低稼働施設の稼働 *2-1-1 稼働率調査参照 ・大学生トレーナーの育成
仮説	選手控室など本来は運動するスペースでなくても、運動講座を開催でき、利用者の需要が確認できる。 現役大学生トレーナーでも需要がある。(卓球) 現役大学生であれば低いトレーナー報酬で指導をする。
実施日時	①2018/11/17、②2018/11/24
実施場所	東京都清瀬市・下宿地域市民センター（選手控室）
対象者	18 歳以上
定員	6 名
参加者	①2 名、②0 名
指導時間	90 分
参加費用	1,000 円
講師	秋間涼聖（現役大学生） 高田京輔（現役大学生）
告知期間	1 週間～2 週間
実施内容	卓球の個別レッスン 個人のレベル、希望する内容にあわせた指導
結果	・大人向けのイベント参加率は前回開催された 2-1-7 指導者育成セミナーと同様に低い。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加した利用者のトレーナーに対する満足度は高かった。(表 25 参照)</li> <li>・トレーナー報酬 (9,000 円/講座 *代理店経由) は他の講座と比べると安い、参加者数が少なく採算が取れない。</li> </ul>
<p>考察/分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・告知期間を約 2 週間設けたが、参加者は募れなかった。他のイベントと同様に、トレーナーの認知度が低い、トレーナー (競技力向上) の需要がないなど集客ができない様々な理由が想定される。</li> <li>・採算面での期待はできるが、どう参加者数を増やすかが今後の課題。</li> </ul>

表 25 指導者の満足度



### 2-1-9 大人のトレーニング教室

実証名	大人のトレーニング教室
目的	低稼働施設の稼働 *2-1-1 稼働率調査参照 トレーナーの需要調査 スポーツ種別調査
仮説	会議室など本来は運動を目的としたスペースでなくても、運動講座を開催でき、利用者の需要が確認できる。
実施日時	①2018/11/28、②2018/12/12
実施場所	東京都清瀬市・下宿地域市民センター（柔剣道場）
対象者	平日午前中が自由な主婦層、シニア層
定員	20 名
参加者	①0 名、②0 名
指導時間	90 分
参加費用	1,000 円
講師	村田剛（鍼灸師、スポーツトレーナー）
告知期間	1 週間
実施内容	“健康的なカラダ作り”大人向けトレーニング
結果	・両日ともに参加者 0 人
考察	・知名度や認知度が低いトレーナーで開催された講座に興味を示す受講者は告知期間が 1 週間ではない。 ・大人向けのイベント参加率は、2-1-8 卓球イベントと同様に低い。（表 26 参照）

表 26 大人向けイベントの参加人数

イベント	参加人数
卓球レッスン	2名
指導者育成	7組
大人トレーニング	0名

2-1-10 セパタクロー体験教室

実証名	セパタクロー体験教室
目的	トレーナーの需要調査 スポーツ種別調査
仮説	馴染みのないスポーツ講座へ興味を示す利用者はいる。
実施日時	2018/12/27
実施場所	東京都清瀬市・市民体育館
対象者	小学生以上（親子での参加も可）
定員	20 名
参加者	3 名
指導時間	1 時間
参加費用	1,000 円
講師	奥千春（元女子日本代表 主将） 矢野順也（元男子日本代表、現・女子日本代表チームコーチ）
告知期間	1 週間
実施内容	<初心者向け>セパタクロー体験教室
結果	・マイナースポーツにも関わらず、参加者はいたが少数であった。
考察	・採算面の問題：参加人数の確保が必須 ・イベントの認知度向上：イベントの周知 ・トレーナーの認知度：トレーナーの認知度（人気）が参加人数に大きく左右する事が想定できる。

表 27 指導者の満足度

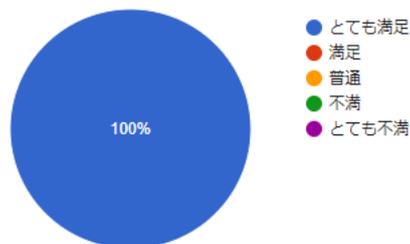
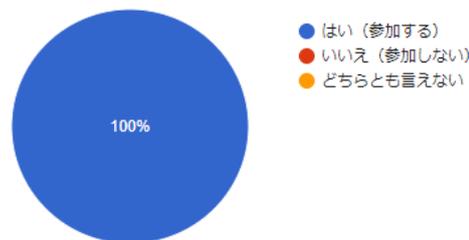


表 28 今後同様のセミナーがあれば参加希望しますか？



## 2-1-10 サッカースキルアップ教室

実証名	サッカースキルアップ教室
目的	トレーナーの需要調査 スポーツ種目別の需要調査
仮説	最新のセンサーを活用したサッカートレーニング、人工芝フルフィールドでの講座へ興味を示す利用者はいる。
実施日時	2018/12/27
実施場所	東京都清瀬市・内山運動公園サッカー場（C面）
対象者	小学校 5,6 年生
定員	16 名
参加者	13 名
指導時間	2 時間
参加費用	2,000 円
講師	松山祐樹 鈴木良介
告知期間	1 週間
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人技術に特化したサッカートレーニング</li> <li>・最新のウェアラブルセンサーを着用したゲーム形式のトレーニング</li> </ul>
結果／分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーナーの人気（認知度）の重要性。</li> <li>・こども（育成世代）対象の講座の需要は高い。</li> </ul>
考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採算面の問題：参加人数の確保。</li> <li>・イベントの認知度向上；イベントの周知。</li> <li>・トレーナーの認知度：トレーナーの認知度（人気）が参加人数に大きく左右する。</li> </ul>

第 3 章 検証調査まとめ及びシステム設計

第 2 章で前述した検証結果、考察記録を参考に、下記 5 項目に着眼したスポーツエコシステムを構成概要とした。

(\*付録 B 「Now Do スポーツ庁委託事業 要件定義書」参照)

**\*Confidential / スポーツ庁内のみ閲覧可**

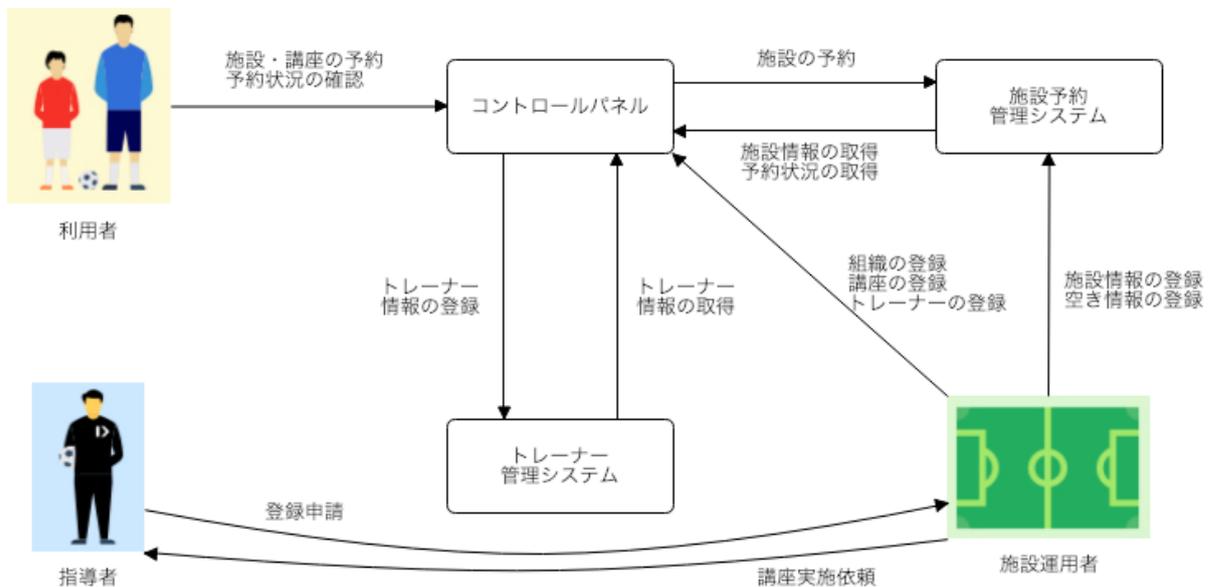


図 1 Now Do スポーツエコシステム

**【使用したい施設の空き時間が見える化】**

施設の空き時間を施設運用者が施設予約管理システム[\*1 EasyBook]に登録しコントロールパネルに API 連携できるシステムを開発した。これらのシステムにより、既存の予約システムと併用が実現し、予約がされてない施設の空き時間がコントロールパネル上に可視化される仕様とした。

-考察された主な課題-

- ・利用日まで 1 週間を切った施設は予約・稼働しない。(第 2 章 2-1-1 参照)

**【施設利用日から 1 週間前の施設予約を簡易化】**

可視化された空き時間がコントロールパネル上で簡易的に予約できる仕組みを設計した。また、コントロールパネルで決済もできる。

**-考察された主な課題-**

- ・既存予約システムは使いにくい。(第 2 章 2-1-3 参照)
- ・施設利用料の支払いを管理等にわざわざしに行くのが手間。(第 2 章 2-1-3 参照)
- ・利用日から 1 週間以内の施設予約については施設管理棟窓口へ行き、施設利用料を支払うことで予約が確定する。

**【トレーナー、講座管理システムの設計】**

施設運用者が全権を持ち、トレーナーの登録、講座の開催を管理できる設計とし、施設運用者公認の登録トレーナーのみ講座を開催できる仕様とした。また、施設利用者が管理しやすいようにコントロールパネルでのトレーナー、開催講座の管理ができる仕様とした。

**-考察された主な課題-**

- ・ブランド、認知度、知名度があるトレーナーを立てないと集客できない。
- ・トレーナーの質、信頼がないと短期間の告知での集客は難しい。
- ・採算が合わない場合の費用負担の責任の所在が明確ではない。

**-その他 懸念事項-**

- ・トレーナー&利用者間のトラブルの懸念。
- ・トレーナーへの報酬の支払い方法。(源泉徴収など含む)
- ・公共施設内での個人の営利を目的とした活動が禁止されている現状。

第 4 章 実証用スポーツエコシステム

4-1 施設予約管理システム [\*1 EasyBook]

- 施設管理ツール -

[https://www.easybook.jp/facility\\_admin/login/index/?redirect=/facility\\_admin/](https://www.easybook.jp/facility_admin/login/index/?redirect=/facility_admin/)

- 運営管理ツール -

<https://www.easybook.jp/admin/login/index/?redirect=/admin/>

(付録 C 付属運用マニュアル「Now Do スポーツ庁委託事業 「施設予約管理システム (EasyBook) 運用マニュアル① 施設情報登録～施設・フィールドの情報公開」参照)

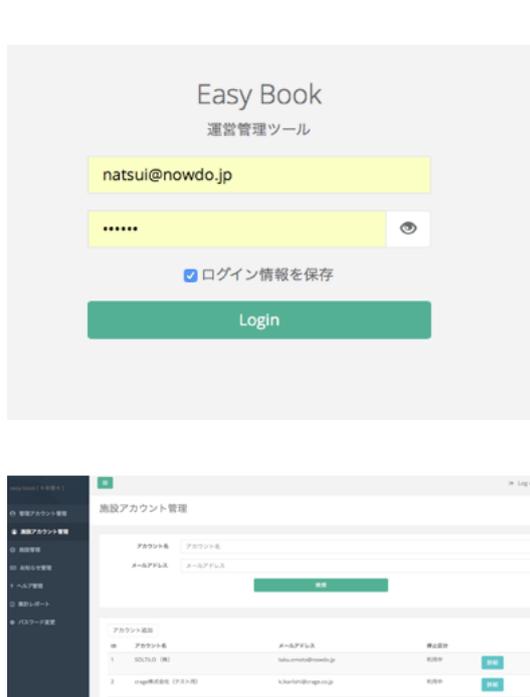


図 2 施設予約管理システム・施設管理ツール

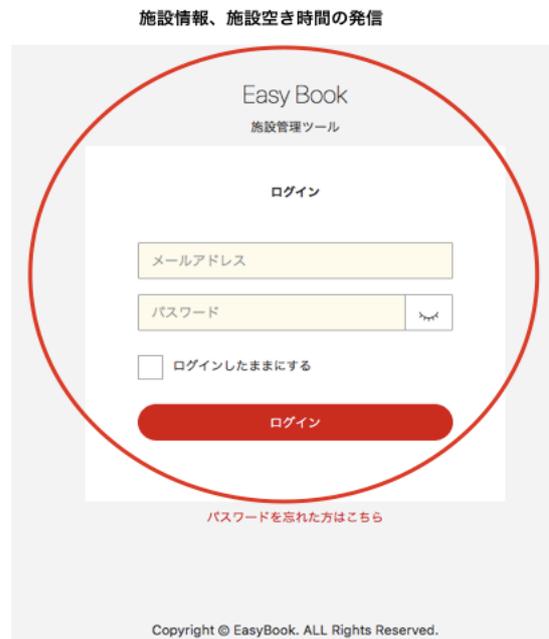


図 3 施設予約管理システム・運営管理ツール

## 4-2 コントロールパネル

-清瀬下宿地域市民センター管理施設-

<https://kiyose.reserve.nowdo.jp>

(付録 D 付属運用マニュアル「Now Do スポーツ庁委託事業 コントロールパネル 運用マニュアル① 施設管理者用 施設情報登録～ Stripe 連携～メール設定～トレーナー登録～講座登録」 参照)

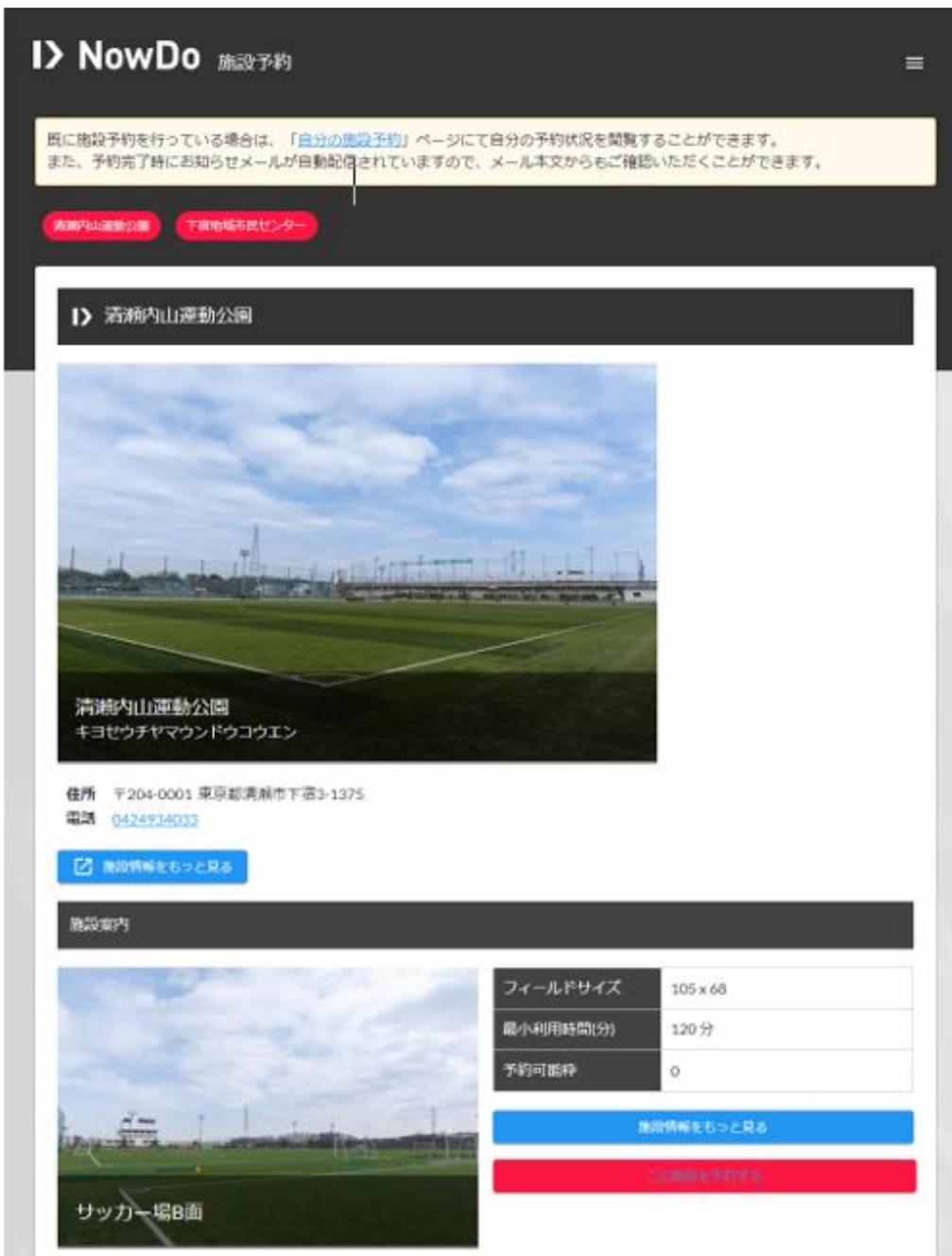


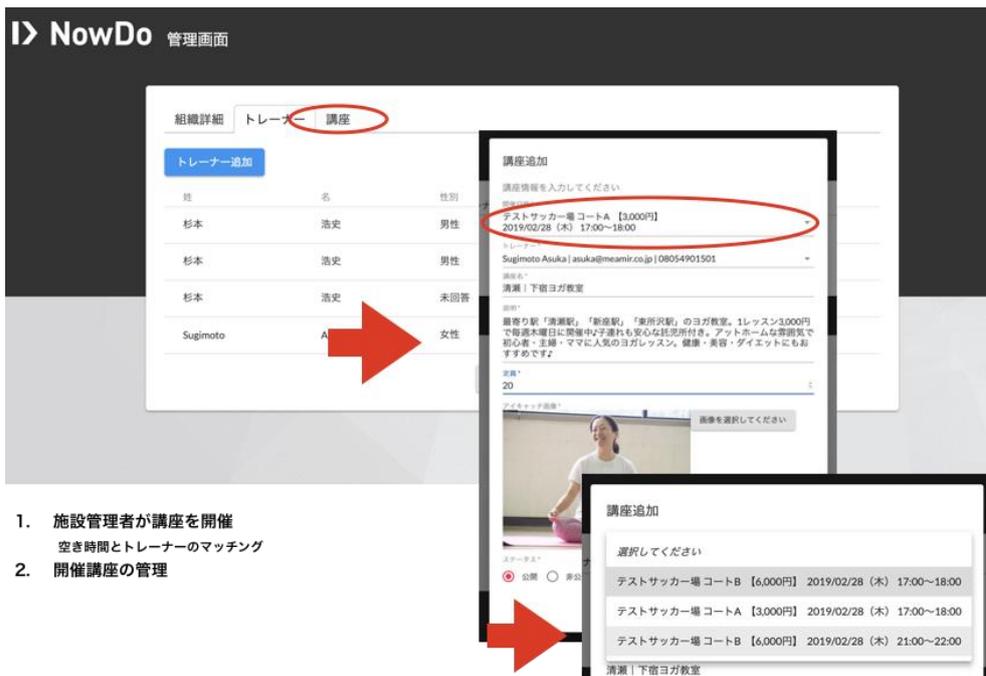
図 4 清瀬市下宿地域市民センター・コントロールパネル

4-3 トレーナー、講座管理システム

-清瀬下宿地域市民センター管理施設-

<https://reserve.nowdo.jp/nd-admin>

(付録 E 付属運用マニュアル「Now Do スポーツ庁委託事業 コントロールパネル運用マニュアル② 利用者用 / 施設予約・講座予約～キャンセル」参照)



1. 施設管理者が講座を開催  
空き時間とトレーナーのマッチング
2. 開催講座の管理

図 5 講座管理システム・施設管理ツール【講座追加画面】



図 6 コントロールパネル【講座予約画面】

第 5 章 清瀬市との調整業務

5-1 清瀬市施設予約管理システムの現状

<https://web103.rsv.ws-scs.jp/kiyose/web/>

現状、モデルケースの実証の舞台である、清瀬市下宿地域市民センター、内山運動公園（テニス場、サッカー場）は施設予約管理システムとして、清瀬市が指定した富士通製の公共施設予約システムを導入し、指定運用者が管理を行っている。（図 7 参照）

<主な施設予約管理システム機能>

- ・ 施設,設備の空き状況の参照
- ・ 予約内容の参照
- ・ 施設の予約、保守・休館などの設定
- ・ 予約情報処理
- ・ 利用者登録管理
- ・ 抽選処理
- ・ 統計伝票の出力（予約、入金、未納一覧）



施設の空き状況です。一ヶ月の空き状況が確認できます。



図 7 清瀬市公共施設予約システム

施設の予約フローとしては、利用者が施設の空き状況をシステム上で検索、確認し、仮予約>(\*市民としての登録が必須) システムに決済機能はなく、利用者は仮予約をした後に、事務局を訪問し支払いを実施。支払いを持って予約が承認されるフローとなっている>(\*支払い期限あり)

また、施設利用日まで1週間を切った予約は事務局での受付しかしておらず、システム上での予約は受付をされない。

施設の予約方法としてはインターネットでの予約が 43.3%、事務局窓口, 26.7%、電話が 16.7%の割合となっている。現状の施設予約の方法に対しては、施設利用料を事務局にまで払いに行くのが面倒に感じていたり、システムがシンプルで使いやすい方がいいなどの意見もある。(検証 2-1-3 参照)

## 5-2 清瀬市との主な調整業務

### 5-2-1 クレジットカード決済の導入

施設利用者は施設予約後に支払いのための事務局を訪問していたが、今回の”Now Do”では決済サービス”Stripe”の導入を清瀬市へ依頼、利用者の利便性向上を市に対して推奨した。

決済サービス導入にあたり下記事項を市と協議した。

#### -キャッシュフローの説明-

清瀬市、指定管理者共に現金主義会計で、売り上げの同月入金処理が必須事項であったため、決済サービスを運用した際の売り上げの入金などを図にて表し説明を実施、理解を求めた>(\*Stripe は月末 4 日前締め、月末最終日支払い)  
(図 8, 9 参照)



図8 決済サービス Stripe のキャッシュフロー

- ① 同日の売り上げの記録が可視化
- ② 売り上げの振込申請も同ダッシュボードで可能
- ③ 売り上げの推移などの分析が可能



図9 決済サービス Stripe ・管理画面

5-2-2 利用規約（キャンセルポリシー）及び使用承認書の発行

市の条例として、予約が確定した後に利用承認書（紙）の発行が義務付けられており、オンラインでの決済時にどう対応するか議論がなされたが、オンライン予約が完了した際に配信される自動メール内にて、利用承認書が発行され、代用できるように対応。(図 10 参照)また、条例に基づいたキャンセルポリシー や施設利用規約などの注意喚起も予利用者が予約をする際に確認できるようにシステム内に実装した。(図 11 参照)

利用承認書による喚起（予約メール）



図 10 利用承認書（予約確認メール）

決済時に利用規約への同意



図 11 利用規約確認画面（予約申込時）

5-2-3 キャンセルポリシー、返金フローの明瞭化

利用者のキャンセル方法、返金までの施設運用者の業務フロー（図 12 参照）を明確にする事が必須だったため、下記の通りの利用者がコントロールパネル上で予約した施設をキャンセルできるようにし、キャンセルが行われた時点で、施設管理者に自動で通知メールが送信され、施設管理者が Stripe の管理画面から返金処理が行えるような設計にした。（図 13 参照）

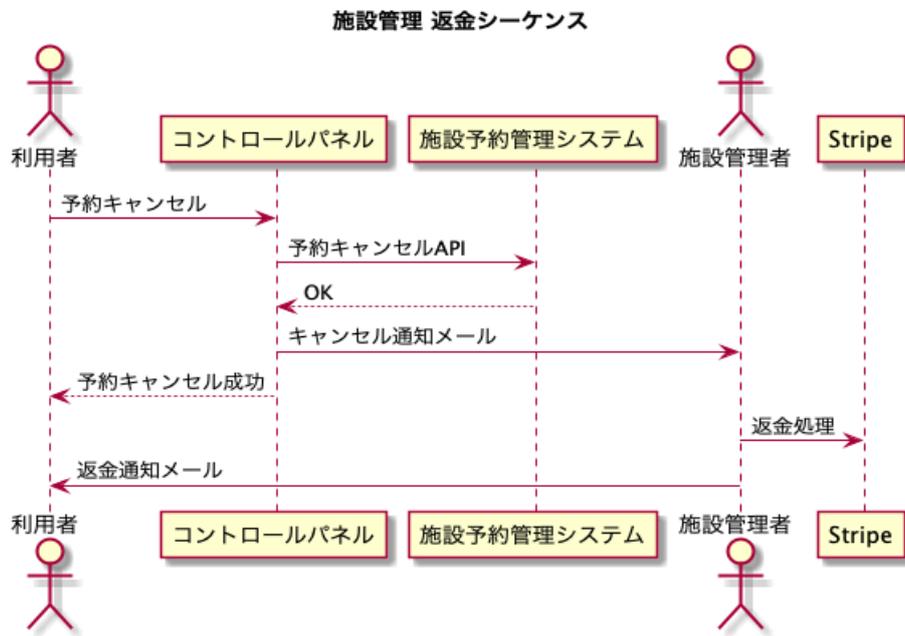


図 12 利用者キャンセル時の業務フロー



図 13 決済サービス Stripe・管理画面<支払の返金>

## 第 6 章 エコシステムのマルチテナント化

本事業の検証、スポーツエコシステムの設計・実装をする中で、将来できるだけ多くの施設に活用してもらえるようなシステムになればとの思いもあり、施設予約管理システムで登録される施設情報が、システムを使用する組織（施設）毎にコントロールパネル上で情報が整理されるように（マルチテナント化）受託事業と並行して検討してきた。（図 14 参照）

施設予約管理システムの登録アカウントと連動し“組織”、“ドメイン”の選択機能を搭載して、それぞれの施設が独自のコントロールパネルを保持できるように実証期間中に設計、実装をした。（図 15 参照）

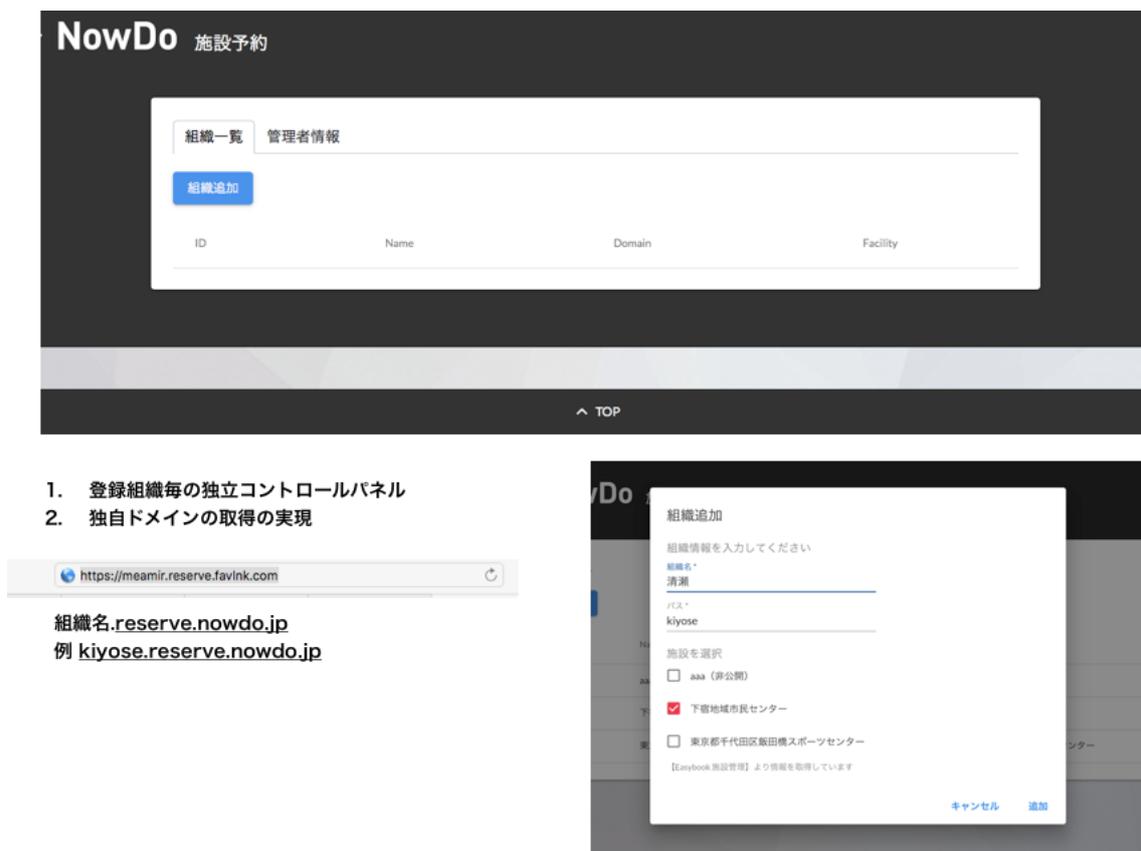


図 14 コントロールパネル<ドメイン取得>



図 15 コントロールパネル<組織追加>

また、組織毎（施設）に異なるキャンセルポリシーなどを注意喚起できる自動配信メール（図 16,17 参照）もそれぞれの組織毎（施設）で設定できるように実装。様々な施設が同スポーツエコシステムを活用できる仕組みを実装した。

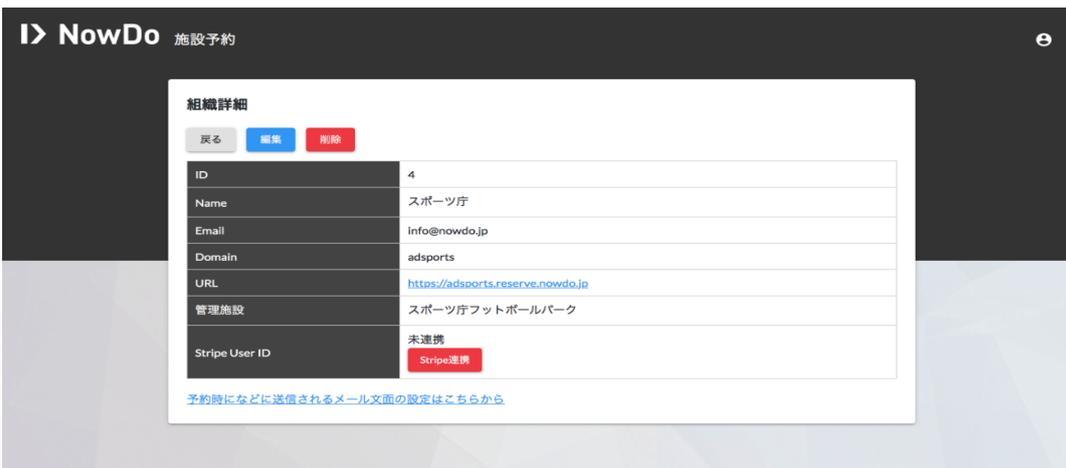


図 16 コントロールパネル<組織詳細>

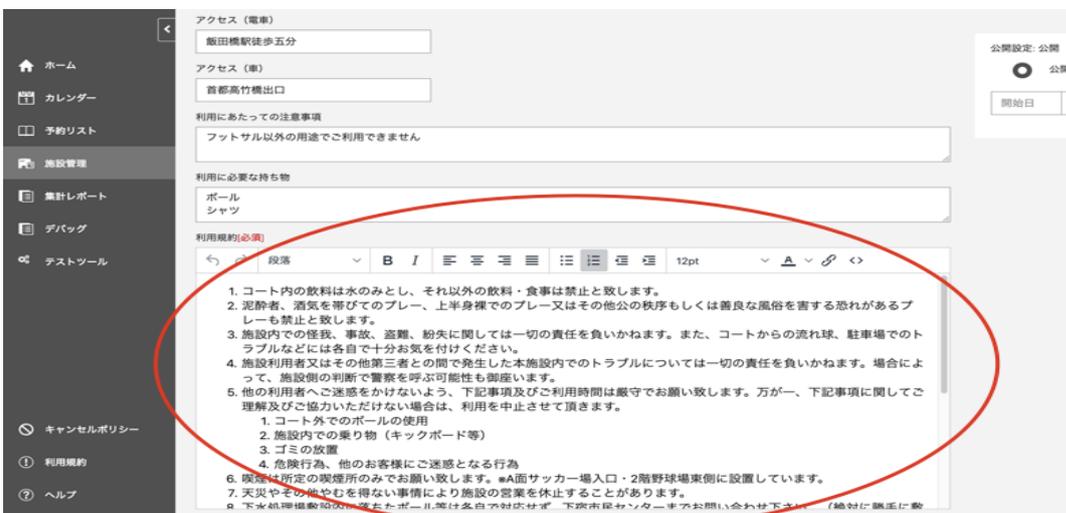


図 17 施設管理ツール EasyBook <利用規約入力画面>

第 7 章 スポーツエコシステムの告知 PR 業務

第 2 章で報告した各検証イベントにて参加者を募るためにチラシの作成やオンラインツールを活用し、告知を創意工夫した。(添付イベントチラシ参照)  
 検証調査のヒアリングを実施した中では、チラシや SNS を見て参加した参加者は少なく、DM (ダイレクトメール)、トレーナー自身での告知による影響が強かった。

また、スポーツエコシステムの完成後システムの周知をするために下記の無償媒体を活用して告知を実施した。本事業の認知度向上に務めた。

<清瀬市>

清瀬市ホームページ (図 18 参照)

清瀬市 SNS (Twitter, Facebook) (図 19 参照)



図 18 清瀬市ホームページ



図 19 東京都清瀬市 Twitter (@kiyose\_tokyo)

<下宿地域市民センター>

下宿地域市民センターHP

下宿地域市民センターSNS (Facebook, Instagram)

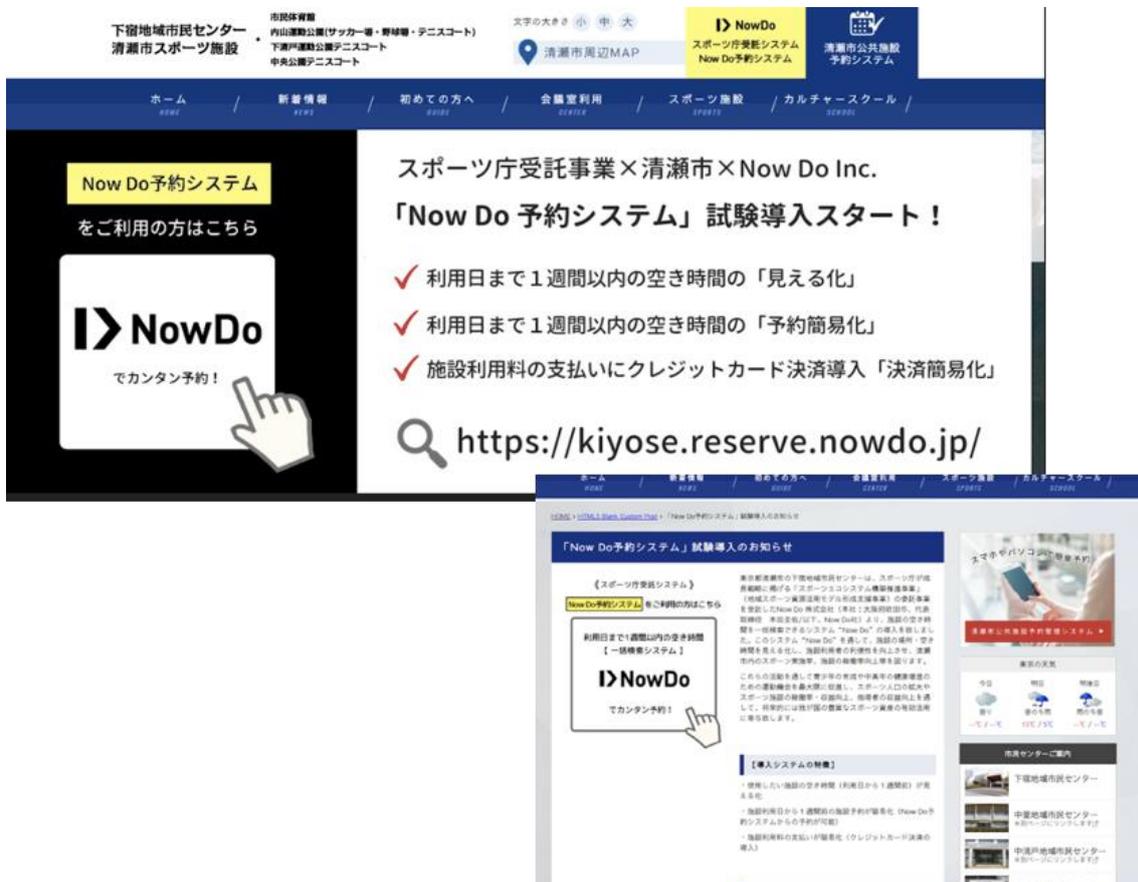


図 20 下宿地域市民センターホームページ

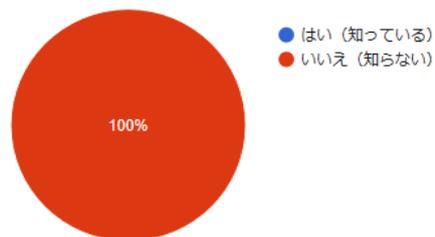
第 8 章 事業まとめ



図 21 下宿地域市民センターホームページ「Now Do 予約システム試験導入のお知らせ

本事業で開発したスポーツエコシステムを下宿地域市民センターで実際に導入し活用したが（実施期間：2019年3月1日～3月31日）、スポーツエコシステムを通じた施設の空き時間の予約、開催されている講座の予約は全く実現しなかった。告知を開始してから2週間後に同施設のカルチャースクールに通う生徒に簡易アンケート「“Now Do 予約システムに関する”ヒアリング」を実施したところ、Now Do のコントロールパネルを認知している生徒がおらず、（表 29 参照）利用者までシステムの情報が届いていないことがわかった。

表 29 予約システム「Now Do」  
をしているか？



しかし、カルチャースクールの生徒もインターネットで講座の申し込みができれば良いとの回答もあり（表 30,31 参照）、引き続き、システムを利用者に認知してもらうための期間、システムの活用利用者が慣れる期間を見越した、システムを訴求する事業主の根気強いアプローチが必要になるであろう。

表 30 インターネットでカルチャースクールの申し込みができれば利用するか？

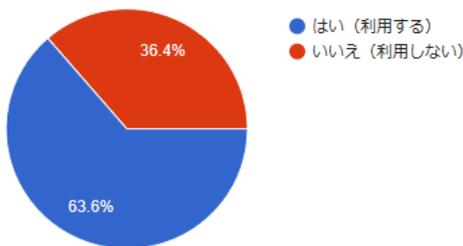
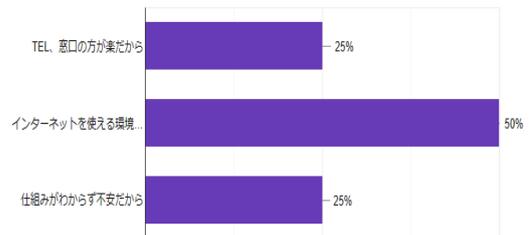


表 31 カルチャースクールのインターネット申し込みを利用しない理由



スポーツエコシステムを導入するにあたり施設運用者からは、

・公共予約システムとの弊害

スポーツエコシステムに公開した施設の空き時間と既存の予約システムとのダブルブッキングを防ぐため、既存の予約システム上では（\*P.29 参照）予約済み施設と登録されるため、通常の予約フローに慣れている利用者、エコシステムの存在を知らない利用者は施設が予約されている認識を持ち、利用促進に繋がらない事もあった。

・クレジットカードにメリット、デメリットがある

チームや部活だと、個人のクレジットカードで立て替えることが難しく、領収書はチーム名や学校名で欲しいなどの要望もありそう。

・施設予約管理システムにて空き時間をカレンダーから入力する際に一括入力や金額の固定が出来れば業務効率がよくなる。

など、修正が必要なフィードバックもあった。

システム導入の大きな目的である利便性の向上を追求する中で、こうしたフィードバックを元に継続的にシステムの開発、修正を繰り返すことにより、更にシステムの精度が上がり、施設運用者、利用者が活用しやすいシステムになることが見込まれる。また、施設運用者の施設稼働率向上に対するモチベーション、業務効率を高めるシステムを使用してみようとするチャレンジ精神を持ち続ける事が、ICT を活用した第 1 章で定めた目的の達成に近づけられるのではないであろうか。本事業では実際にシステムを活用して成果を見定める期間が短かったが、アナログでの検証、実証調査では個人指導やマイナースポーツ、会議室などを活用した運動講座の需要は確認できており、これらをシステムを通して効率的、効果的に表現しようとする姿勢が前述したチャレンジ精神と併せて重要になるのではないだろうか。

期待される効果	効果		考察
	アナログ	エコシステム	
① 地域市民のスポーツ実施率向上及び地域施設の有効活用	○	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働率の低い、会議室や選手控室を活用した座学・実技ともに講座を実施。(アナログ)</li> <li>・清瀬市在住の方にも参加してもらえた。(アナログ)</li> <li>・エコシステム導入後の予約はなかった。</li> <li>→エコシステムの周知に時間がかかる。</li> </ul>
② マイナースポーツも含むアスリートのビジネスモデル創出によるセカンドキャリア支援	△	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セバタクロー体験教室の実施(アナログ)</li> <li>→少なかったものの、参加者はいた。継続していくことで参加者が増える可能性もあると考える。</li> </ul>
③ スポーツ指導機会の増加によるスポーツレナーの育成	×	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生アスリートによるトレーニングの実施</li> <li>→しかし大人向けのイベントであった為、参加者が集まらなかった。継続した講座の開講はできず。</li> </ul>
④ マイナースポーツも含む未来アスリートの育成	△	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー、運動能力向上講座など、子供を対象とした講座の実施。</li> <li>→サッカー(育成世代)関連の講座に関しては多く参加者が集まった。</li> </ul>
⑤ シニア層の運動機会の創出	×	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニアを対象としたイベント内容の見直し</li> <li>→シニアに関しては運動をするにあたって様々なハードルが存在する。</li> <li>- 運動に対する意欲が低い</li> <li>- 金銭的な余裕がない</li> <li>- エコシステムに対して抵抗を感じる人が多い(インターネット、クレジット決済)</li> </ul>

表 32 エコシステム導入による効果

本事業においての検証の舞台が公共施設という点での条例との調整の難しさや、施設運営における目的が営利的な目的を掲げる民間施設との違いがあるため、システムを導入する意図、目的を行政、施設運用者共に十分に理解した上で事業を進める事が大前提で、施設を利用する側や施設で運動する側が“エコシステム”を求めているか、今後も継続的な調査が必要である。